



山梨市地域福祉計画 再犯防止推進計画

ちいきふくしけいかく 1 地域福祉計画ってなんだろう？



山梨市では、赤ちゃんや子どものいる家庭、介護が必要なお年寄り、生活が大変な人などが、いくつも問題を抱えていることがあります。相談する人がいなくてさみしい思いをしている人もいて、誰にも気づかれずに困ってしまうことが増えています。

こうした問題をなくすために、山梨市は「地域福祉計画」を作ります。困っている人がどこにいて何が必要かをはっきりさせ、市役所だけでなく地域の人やボランティア、福祉の団体と力を合わせて助け合う仕組みを作るため計画が必要です。どんなサービスがあるかをわかりやすくまとめ、必要な人にきちんと届くようにし、ひとりぼっちになる人を減らして、みんなが安心して暮らせるまちにしたいからです。

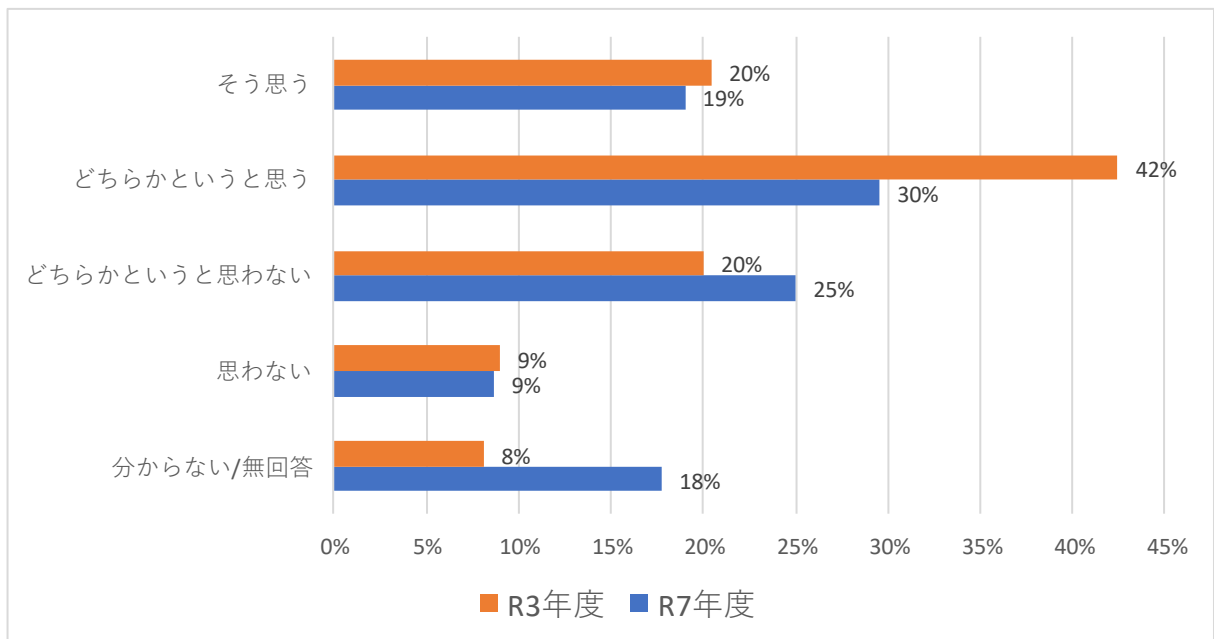
この計画では、市役所や社会福祉協議会、地域の人たちや関係団体がいっしょに話し合い、困っている人に必要な助けが届くように仕組みを整えます。

●いつまでの計画

計画の期間は、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5年間です。



● アンケート調査で分かったこと



アンケート調査で、まわりの人達やさまざまな活動など「地域」に助けてもらっていると感じているかどうかを調べました。「あなたは地域に支えられていると思いますか？」という質問に対し、前の調査（令和3年度）と最近の調査（令和7年度）を比べると、次のことがわかりました。

「どちらかというと思う」と答えた人は、令和3年度の42%から令和7年度は30%に減りました。一方で、「分からない」と答えた人は8%から18%に増えました。つまり、以前は「なんとなく地域に助けられている」と感じていた人が、最近では「よく分からない」と感じるようになっていと考えられます。これは、近所の人と会うことが少なくなったり、地域の活動のしかたが変わったりしたために、助けを感じにくくなっているからかもしれません。

この調査は一つの見方なので、これからいろいろな方面からみんなの様子をしっかりと調べて、市や地域みんなが一緒になって、誰もが支えられていると感じられるまちづくりを続けていきたいと思ひます。



●^{やまなし}山梨市のこれからと、みんなで^{たす あ たいせつ}助け合う大切さ

^{やまなし}山梨市は、これから赤ちゃんや子どもが少なくなり、お年寄りが増える「^{しょうしか こうれいか}少子化・高齢化」が^{すす}進みます。「^{しょうしか こうれいか}少子化・高齢化」が進むと、近くに
あるいろいろな「^{ばしょ}場所」や「^{ひと}人」が減ってしまい、暮らしが不便になったり、まちがさびしくなったりします。

だから、^{ちいき}地域の^{ひと}人たちが^{たす}助け合うことが^{たいせつ}大切です。^{きんじよ}近所であいさつをしたり、お年寄りの^{かい}買い物を^{てつだ}手伝ったり、^{つうがくろ}通学路を^{みまも}見守ったりして、みんなが^{あんしん}安心して暮らせるまちになります。^{こま}困っている^{ひと}人を見かけたら「大丈夫ですか？」と^{こえ}声をかけてみましょう。

^{たいせつ}【大切にしたい ^{かんが かつ}考え方】

^き気づく、つくる、つな^{やまなし}がる山梨市
～みんながもうちょっと ^{しあわ}幸せになる～

「みんながもうちょっと^{しあわ}幸せになる」とは、^{とくべつ おお}特別な大きな^{へんか}変化ではなく、^{まいにち}毎日の暮らしの中で感じる^{なか かん ちい}小さな^{あんしん}安心や^{よろこ}喜びを増やすことです。

^{だれ}誰かに^{こえ}声をかけられる^{あんしんかん}安心感。

^{きが}気軽に^い行ける^{いばしょ}居場所での^{えがお}笑顔。

^{こま}困ったときにすぐ^{そうだん}相談できる^{あんしん}安心。

こうした「もうちょっと^{しあわ}幸せ」を、市と^{し ちいき}地域のみなさんで^{いっしょ}一緒につくって^い行きたいと^{おも}思います。



【取り組み方針】

山梨市が目指すまちを実現するために、4つの目標をもとに、さまざまな事業をおこないます。



基本目標 1

安全・安心な暮らしを守るしくみづくり

お年寄り、障がいのある方、子ども・子育て世帯、生活に困っている方など、問題を抱え助けを必要とする人が必要な助けやサービスを選択でき、利用できるようにすることで、誰もが安心して暮らせるようなしくみづくりに取り組みます。



基本目標 2

自分らしく活躍できる地域づくり

一人ひとりが自分のペースで関わりながら、共に成長し、支え合える社会になるように取り組みます。



基本目標 3

誰もがともにつながり、支え合う地域づくり

同じ地域で暮らす人同士が顔の見える関係をつくり、積極的に見守りあい、支え合い、困ったときに助け合うことができるようつながりを深める活動に取り組み、支え合いの地域づくりを進めます。



基本目標 4

地域に関心をもち、行動できる人が増える環境づくり

地域に住む一人ひとりが自分のまちに関心をもち、「支える人」「支えられる人」と分けるのではなく、みんなが地域の一員としてイベントの手伝いや困りごとの解決に参加できる人を増やしていきます。



さいはんぼうし すいしんけいかく 2 再犯防止推進計画ってなんだろう



犯罪をした人たちの中には、安定した仕事や住まい、信頼できる家族や友だちがいないなど生活上の困りごとを持っている人が多くいます。また薬物やアルコールに頼ってしまうことも少なくありません。

そんな人たちを「もうだめだ」とあきらめてしまうのではなく、地域の一員として受け入れ、みんなで支えていくことが大切です。市は国や県、NPO や民間のグループと協力して、仕事の相談や訓練、仕事につながる支援、住まいを見つける手伝いなどを行います。この計画は、そうした助けを市の仕事にしっかり取り入れて、誰もが安心して暮らせるまちをつくることを目指しています。

【取り組み方針】

地域社会の理解と受け入れの促進

地域で説明会を開いたり、知らせる活動を行ったりして、犯罪をした人に対する誤った考えや差別をなくします。そうすることで、その人たちがまた安心して社会で生活したり働いたりできるように、みんなで応援します。

多機関連携の強化

市や病院の人、警察、保護司、それに地域のグループがいっしょに力を合わせて、まちのようすに合った助け方をつくっていきます。そうすることで、困っている人が安心して暮らせるようにみんなで支えます。

就労・居住の確保による再犯防止の推進

まちの人たちや関係する機関が力を合わせて、仕事を見つける手伝いや住む場所を探すサポートをもっとしっかりします。そうして生活の土台を安定させることで、同じ悪いことをくり返さないようにします。

非行防止の推進による犯罪防止の強化

地域の人たちが早い段階で悪いことをしそうなサインに気づいて、学校や家族、相談できる所といっしょに助けます。そうして子どもや若い人が元気に育つように支えます。

ちいき なか
地域の中で

あなたのもうちょっと ^{しあわ} 幸せになる・・・

^{なん}
それは何ですか？



山梨市地域福祉計画

令和8年（2026年）3月発行

〔発行元〕

山梨市 福祉課 社会福祉担当

〒405-8501 山梨市小原西843

TEL: 0553-22-1111 / FAX: 0553-23-2800